

若楠かわら版

社会福祉法人 若 楠
療育医療センター 若楠療育園
若楠児童発達支援センター



〒841-0005

佐賀県鳥栖市弥生が丘 2 丁目 134 番地 1

Tel 0942-83-1121

Fax 0942-83-1755

輪

(和)

に

な

っ

て

踊

ろ

う

♡



フォークダンス

(企画: 若楠療育園 衛生委員会)



～心とからだに良いことを 踊ればみんなに とびきり笑顔～

10月22日プレイホールにて、園内研修の一環でフォークダンスを行いました。

お知らせ当初、職員さんからは「フォークダンス?」「え～っ?」という声もちらほら。そんな中、誰もが無理なく踊れる曲を厳選し、朝礼後や各会議の最後に練習してもらい、皆さんのやる気、興味を少しずつ UP してもらえるように。

オープニングには「開園当時の夏祭り、盛大な盆踊り映像」。利用者・ご家族・職員が一同に笑顔で踊る姿が映し出され、参加した皆さんの気持ちも盛り上がっていきました。いろいろな部署から、利用者、職員が参加してプレイホールいっぱいに広がった大きな輪。はじめは不安そうな方もあっという間にみんな笑顔 笑顔 笑顔! リズムに合わせて体を動かし、楽しい雰囲気の中で交流を深められ、良いリフレッシュにもなったのではないのでしょうか。

最後に、踊った曲目は、キンダーポルカ(ドイツ)、マイムマイム(イスラエル)。
そして大トリは勿論…炭坑節!!!。 日本人ですから…

衛生委員会

中原 昌子

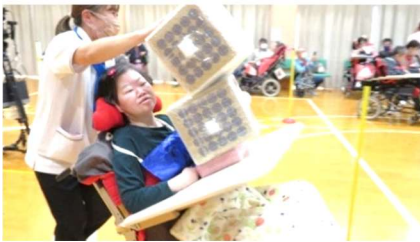


入 所 支 援 部

療 育 園 祭

10月29日(水)は待ちに待った「療育園祭」！入園者の方々が笑顔いっぱいに、さまざまな競技に挑まれました。「パズル合わせ」では、力を合わせてピースを探し、完成した時には大きな拍手が起こりました。続いて「玉入れ」。赤・青チームに分かれて一生懸命ボールを投げ入れ、にぎやかな声援が館内に響き渡りました。「段ボール運び」では、バランスをとりながら慎重に運ぶ入園者さんの真剣な表情がとても印象的でした。そして最後は、ご家族の皆様と職員の連合軍による、「綱引き大会！」絶え間ない会場の皆さんからの声援を受けながら、力いっぱいの熱戦が繰り広げられ、大いに盛り上がりを見せました。

楽しい一日を通して、入園者さん、ご家族、職員とのつながりを感じる素敵な療育園祭となりました。



どんぐりミュージアムへの出展(木りんクラブ)

11月末までどんぐり村で開催されている「法人若楠合同作品展」に、3つの作品を出展しました。

- ①『楽』は、口で筆をくわえて顔を動かして、一筆ずつ筆をすべらせて丁寧に書きました。
- ②『花のちぎり絵』は、色や図の構成を自分で決め、色紙ちぎり、のりを塗る作業等、一つひとつに時間をかけて作りました。
- ③『鍋敷き』は、やすりがけ→色塗り→ステンシルと、木りんクラブのメンバーで作業を分担して作った合作です。

12月からは、佐賀県立美術館で開催される「佐賀県障がい者文化芸術作品展」にも出展します。どの作品に携わった利用者の方も、たくさんの人に見てもらえるといいなあ～とワクワクしています。



生活介護事業

スポーツの秋

今年の秋は、利用者の皆さんが大好きな「ふうせんバレー」でスポーツを楽しみました。

手足や頭など全身を使ってそれぞれが自由に風船を打ち返されていました。

運動前の準備体操や運動後のマッサージも入念に行い、安全に怪我無く「スポーツの秋」を満喫することができました。



HAPPY HALLOWEEN

「ハロウィン週間」では、自分で選んだ衣装に身を包み、ハロウィンにちなんだゲームを行いました。皆さん笑顔で楽しんでいました。



若楠児童発達支援センター

(重心クラス)児童発達支援・放課後等デイサービス

スポーツの秋ですね。
「ボウリング、玉入れ大会」をしました。
大会に向けて自分で作った、オリジナルリストバンドを付けて挑みました！
ピンがたくさん倒れるまで何度もチャレンジする子や手足を懸命に伸ばしボールを自分で入れたり転がそうと集中する子、みんなが楽しんでいる声につられ、素敵な笑顔を見せてくれる子。その姿に一人ひとりの成長が感じられ、スタッフもたくさんのエネルギーをもらいました！ 毎日が青春です！



児童発達支援

「オルゴールの音色の中で」

スヌーズレンを行いました。
スヌーズレンは、優しく心地良い感覚刺激(光や音等)の中から、自分で選んだ好きな感覚を楽しみリラックスして過ごしてもらう活動です。

プロジェクターに映る蝶々や色彩が変わるサイドグローの光を見つめる等、様々な刺激の中から心地よい感覚に触れました。

サイドグロー
様々な色に変わります



放課後等デイサービス

ハロウィンの活動では、人とのやり取りの仕方(伝え方、距離感)や慣れない人や場所への対応を目的に活動を行いました。

普段行かない場所で慣れない人と話すことが苦手なお子さんも、お菓子を貰うことを目的にすることチャレンジできました。

また、途中で何をやるのか忘れてしまっても、手元に確認表があるので、安心して伝えることができました。

お菓子を貰いながら、嬉しそうなお顔をを見せてくれました。

おかしをくれなきゃ
いたずらするぞ！



もらえて
うれしい♪



お菓子を入れる
バッグとマントも
手作りしたよ！



若楠児童発達支援センターでは、 次のような事業をおこなっています。

通所

◦児童発達支援事業

フレームワークを活用し、より主体的・自発的に生活できるよう支援をおこなっています。

また、関係機関(保育園・幼稚園・他事業所・重心医療など)との連携もおこなっています。

◦放課後等デイサービス事業

活動を通して集団生活への適応を高め、自立や社会生活の充実を目指しています。

年に2回程度、職員が学校へ授業の見学に伺い、情報共有・相談対応をおこなっています。

地域

◦保育所等訪問支援事業

◦佐賀県児童発達支援センター機能強化事業

・発達相談(予約制)・親子教室、チャレンジ教室(療育指導教室)

・訪問相談

・研修会、学習会

センターで働いている職員



保育士(常勤7名)

社会福祉士(常勤1名)

児童指導員(常勤1名)

言語聴覚士(常勤1名、非常勤1名)

作業療法士(常勤1名)

理学療法士(常勤1名)

臨床心理士(常勤1名)

公認心理師(常勤1名)

看護師(常勤1名)

強度行動障害支援者養成研修修了者3名

若楠児童発達支援センター 心理士の役割

センターに初めて来られた方の発達相談を担当しており、現在の困りごとについてのご相談をお受けしています。また、児童発達支援や放課後等デイサービスなど、お子さん達と関わる中で直接支援を行う場面もあります。

地域支援として保育園や幼稚園への巡回相談では集団(園生活)の中でのお子さんの様子を観察し、子どもが安心して園生活を送れるように関わり方や環境設定などについて保育士の方と協議するなど、園サポートも行なっています。



児童発達支援センターとは、地域の中核的な療育施設です。

発達支援

発達に遅れや課題を抱えている子どもたちの成長をサポートする支援をおこなっています。子どもが集団や社会の中で自立して生活していくため個別や集団活動で認知機能や運動能力、コミュニケーション能力などの発達を促しています。

家族支援

子どもの家族が安心して子育てできるよう、面談や親子教室、関わり方などに関する相談や助言をおこなっています。

地域支援

地域の児童施設、福祉事業所への助言、サポートをおこない、地域全体で子どもたちを支える体制作りにも関わっています。



「Instagram」制作現場から



多くの方に当園を知って頂くのに貴重な情報発信源となっている「Instagram」の制作現場に同行しています(クロコデザインさん)。

一方で「現場職員さんの日常」を表した動画が少ないとのことのお話もあり、折角ならその取材風景も記録できれば、今後に生かせるのでは・・・と。

私も前職の経験を生かし、カメラを回させて頂くことにしました(取材風景の取材)。

こちらの収録は「5月の華道クラブ」から。利用者さんに温かく寄り添う様子だけでなく、インタビューを通してこそ表現される「職員さんの熱い思いや素顔」にも多々触れる中で時々、ウルっときています。

この特別な時間により、利用者さんだけでなく「職員さんお一人おひとりが輝く場面」に出会える事はとても楽しみであり、こんな貴重な機会を頂けることに大変感謝しております。

お忙しい中、取材にご協力、ご承諾頂いた皆様には改めて御礼申し上げます。(事務課 栢山 伸児)



▲スタッフの
熱い思いや素顔が載っている
Instagramはこちらから♪



【編集を終えて】

最近、久しぶりに熊本城を訪れました。地震以降では初めてです。復旧はかなり進みこれまでとはまったく違う高い場所にも通路が設けられていて、最初は少し驚きました。

歴史ある景観にこの新しい構造がどうなじむのだろう、と戸惑いを覚えたのも本音です。けれど実際に歩いてみると、視界が開け、天守閣がゆっくりと近づいてくる道のりは新鮮で、何よりそれが高齢の方や障害のある方、小さな子ども連れのご家族にもやさしいつくりになっていることに気づきました。

私はお城に行ったら天守閣からの風景を見るのが好きです。ただ、お城は地形を活かした場所にあるので、アクセスが厳しいと感じることはこれまでに多々ありました。

歴史を守りながらも、誰もが安心して訪れることのできる場所へと進化していく・・・。その姿に、観光地のこれからの在り方を見たように思います。

「変わらないものを大切にしつつ、必要な変化を受け入れる勇気」
熊本城は、その両方を静かに教えてくれました。

【お知らせ】12月中旬から、事務室、本部事務局の改修工事が始まります。

ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご協力をお願いいたします。

(事務長 新貝 恵美)